

第3回生涯学習審議会（2022年12月21日開催）でいただいた主な意見等

※審議会終了後、欠席した委員からメールでいただいた意見等を含む

生涯学習及び図書館に関する市民意識調査の結果について

- ・ 情報を検索するというのは圧倒的にインターネットが早いですが、入手した情報が正しいかどうかは分からないという問題がある。本の場合は編集者がいて査読できており、良質な情報を得ることができるが、時間がかかってしまう。本を読むということに対してもっと学校も力を入れなければいけない。
- ・ 「日常的に情報はどこから得ていますか」の質問について、テレビが66.8%とのことだが、今の大学生は殆どテレビを見ていない。アンケートの結果が全世代のものとは言えないのではないかと。年代別にターゲットを絞っていくことが必要であり、アンケート結果は慎重に扱わなければいけない。
分析の仕方を工夫する必要があると思う。データ自体に価値があるのではなくて、それをどう解釈していくかに価値がある。
- ・ 地域活動・市民活動への参加に係る質問について、選択肢で「参加しなかった」というものがあるが、「参加したかったがコロナ禍で控えた」や「参加したかったが興味のあるイベントがなかった」などの選択肢にすることで、意思が分かるとよい。理由がわかると、次の方針に活かすことができる。

次期教育プランの重点事業ワークシートについて

- ・ I-5「まちだの歴史・文化を学ぶ機会の充実」について、活動指標の「町田ゆかりの作家／町田が登場する文学作品を知って貰うための事業の実施数」は、文学作品に限定する理由は何か。
- ・ I-5「“ことばの扉”推進事業」について、概要に「お客様が多様な考え方や価値観に触れることで…」という記載がある。市民と行政が一緒につくっていくという観点を考えると「お客様」という立ち位置は違和感がある。⇒記載内容を修正いたしました
- ・ I-5「学びの入口の充実」について、概要にある「リソースを再配分します」とは、具体的にどのような取り組みを指すのかが読み取りにくい。⇒記載内容を修正いたしました
- ・ III-1「学校図書館の機能強化」について、「計画的な図書廃棄、更新を進めていきます。」という記載があるがそれには予算が追いついていないと感じている。図書の更新を向上させることを考えてほしい。
- ・ III-1「学校図書館の機能強化」について、学校図書館の運営を担う人材確保は重要なことであると受け止めている。工程表では2028年から実施となっているが、早めに整備していくことが期待される。

- ・ Ⅲ－２「生涯学習情報のデジタル化の推進及び学習相談体制の整備」について、「生涯学習情報」が何を指すのかが、読み手によって分かれるのではないかと思う。具体的な例示をしてもよいのでは。
- ・ Ⅳ－３「ワタシが主役の図書館づくりの推進」について、他の事業とは異なる概要の書き方になっていると思う。
- ・ Ⅳ－３「地域での学びの拡充」について、工程にある「家庭教育支援事業の再編」が概要にあるどの取り組みと結びつくのかが読み取りづらく思う。⇒記載内容を修正いたしました
- ・ Ⅳ－３「学びのネットワークづくりの促進」について、概要・活動指標・工程表中に「町田市内の大学等…」という表現があるが、「町田市内外の…」や「町田市と連携協定を締結した…」など、町田市内に限定しない表現としていただきたい。⇒記載内容を修正いたしました

その他（生涯学習施策全般に対して）

- ・ 子どもたちは生涯学習に触れる機会が少ない。大人になっても勉強する人がたくさんいることや、それが楽しくて人生を豊かにするということを知る機会として、子どもたちに学ぶ大人の姿を見てもらう施策ができるとうい。
- ・ 生涯学習センターでの講義を小中学校にも広める等、学校と繋がっていけるようなことを生涯学習センターにやってほしい。
- ・ OJT 以外の学びを社会人になっても続けていくことが重要だ。自分がどんなことを学んでいきたいか、初めの一步を踏み出せるような学びの裾野を広げることを進めてほしい。
- ・ 大学生のビブリオバトルというものもあり、地域大会から全国大会まである。それに似たようなことが市でもできないか。
- ・ メディアの使い分けについて考えていく上で、アナログ的な思考にはどのようなメリットがあるのか等、考えたうえでデジタル化を区分けして進めていく必要がある。
- ・ 学びのきっかけとなる機会を提供するために、高校を卒業してすぐに働いている方たちにはどうやって届けたらよいのか。町田市内の高校・大学に通う方に呼びかけるのでは、本来届けたいところに届かない。
- ・ OJT では自分の企業にとって都合のよい知識技能を学ばせ、自分の組織に関係のないものは学んでほしくないため、新しい方向にはならない。OJT ではない新しい知識や技能が必要になる。
- ・ 電子書籍は玉石混淆で、優良なコンテンツが手に入るのかと問題視している。学校教育に必要なのは責任のある立場で書かれ編集された優良なコンテンツであるため、そのようなものを町田も入れて学校に提供するのが望ましい。

- 学校施設利用の整備を進めることにより、生涯学習と学校がもっと身近になり、若年層にも浸透していくと思う。

若年層に浸透させるには、すでに行われているかもしれないが、まちともを活用して出前授業をする他、都立高校とコラボして子どもたちの学びの場が増やせれば、子どもたちがより近い将来を考える機会になるのではないかと思う。